保育だより

2026年　9月号

社会福祉法人いずみ会
幼保連携型認定こども園
つるた乳幼児園
園長　福　澤　紀　子
北津軽郡鶴田町大字鶴田字相原68-2
電話　0173（22）３７６５

体験から広がる学び、育つ心

保育教諭　松　山　彩　乃

先日の夏まつりでは、創立55年を記念したねぶた運行を町と合同で行うことができました。これまで本園が歩んできた55年は、保護者・地域の方々をはじめ、多くの方々に支えていただいた年月でもあります。当日は沿道から温かい声援をいただき、地域とのつながりを改めて感じるとともに、これまで支えてくださった皆様へ感謝の気持ちをお伝えする機会となりました。子どもたちにとっても、地域の方々に見守られながら行事に参加する貴重な体験となりました。

つるた乳幼児園では、日々の教育・保育の中で「体験から学ぶ」ことを大切にしています。子どもたちは、見たり、触れたり、考えたり、試したりする中で、自分なりの気づきを得ています。一見すると遊びにみえる時間の中にも、考えること、友だちと相談すること、試してみることなど、多くの学びがあります。

年長児では、マリーゴールドや野菜の栽培を通して、さまざまな体験をしています。マリーゴールドは芽出しから行い、歴代の年長児が育てた花から採った種を次の年長児へとつないでいます。一人ひとりが花に名をつけ、「暑いけどがんばるんだよ」「早く大きくなるんだよ」など、思い思いに声をかけながらお世話をしています。花の成長を見守る中で、育てる心や命を大切にする気持ちが育っています。

畑では何を植えるかを相談するところから始めました。例年育てているトマトについて、「今年はミニトマトにしたい」という意見が出る一方で、「小さいお友だちが間違えて食べたら危ないかもしれない」と、年下の友だちのことを考える姿もありました。また、草むしりの際に、野菜の芽まで抜いてしまった経験から、「次はどうしたら間違えないかな？」と考える機会も生まれました。失敗も、次につながる大切な学びの一つです。

さらに「ナスの葉はどうして葉脈が紫なの？」「トマトとじゃがいもの花はどうして似ているの？」など、育てているからこそ生まれる疑問もあります。子どもたちの「どうして？」を大切に一緒に調べることで、新たな発見へとつながっています。

このように、子どもたちは体験を通して「なぜ？」「どうして？」に出会い、自分で考え、友だちと話し合い、試してみることを繰り返しています。その一つひとつが、考える力や感じる心、命を大切にする気持ち、自然の恵みに感謝する心へとつながっていくのだと思います。

これからも子どもたちの「やってみたい」「知りたい」という気持ちを大切に、日々の小さな気づきを一緒に見つけながら、学びを深めていきたいと思います。園での子どもたちの発見や成長を、保護者の皆様と共有し、一緒に喜びながら、一人ひとりの育ちを温かく見守っていけたらと思います。

◆報　　告◆

◎夏まつり　8月15日(土)　※写真

『つるたまつり』で、ねぶたの合同運行に参加致しました。保護者の皆様、地域の皆様のご協力の元、つるた乳幼児園創立55年の記念となる夏まつりを終えることができました。

◎夏まつり募金報告

合　計　　135,842円

（ご祝儀、奨励金、助成金を含む）

・鶴花塾へ　　35,842 円

・熊本地震にかかる義援金へ　100,000円

上記２ヶ所へ捧げましたことを報告致します。ありがとうございました。

◎夏季保育の様子

暑さ対策をしながら、水遊び、泥遊び、プール、シャワー等夏の遊びを楽しみました。

◆行　　事◆

◎五農体験　9月29日(火)　予定

◆消　　息◆

◎三浦愛美 保育教諭

9月１日より復職致します。

●子育て支援センターより●

◎９月のリフレッシュタイム（毎週水曜日）

２日、９日、16日、30日